

<株式会社エフエム東京 第342回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成19年9月4日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社10階大会議室
3. 委員の出席：委員総数7名（社外7名 社内0名）
 - ◇出席委員（5名）
 - 子安美知子 委員長 青池慎一 副委員長
 - 内木文英 委員 横森美奈子 委員
 - 渡辺貞夫 委員
 - ◇欠席委員（2名）
 - 内館牧子 委員 香山リカ 委員

4. 議題

- (1) 最近の活動について
- (2) 番組試聴：「SAMURAI in The Ballpark」
 - 2007年6月6日（水）、22日（金）、7月27日（金）、8月2日（木）
 - 10：55～11：00放送分 <試聴時間：約20分>

≪議事内容≫

議題1：最近の活動について

◎ 10月改編について

編成制作局では編成改革プロジェクト行動計画にもとづき、4月改編以降具
体策を実施しプロジェクトを推進しています。

10月改編も、プロジェクト行動計画に則り、以下のポイントで実施します。

1. プロジェクトの重要な骨子のひとつとして、音声放送ならではの報道番組
開発に取り組む。ターゲットの心の内側とリアルに向き合い、時にディ
ープな社会問題にも踏み込んでいく報道番組、情報番組への取り組みの象徴
として、平日16時台に25分ベルト拠点番組を新設。坂上みきをナビゲ
ーターに、若い報道部員を現場取材者とする新報道番組にチャレンジする。

2. 音楽シーンにとどまらない様々な旬の才能が集まるゾーンを開発すべく、土曜 24 時以降に人気芸人 松本人志、世界に認められた芸術家 村上隆に加えて売れっ子脚本家 宮藤官九郎、CM トップクリエイター 箭内道彦等を起用する 3 時間半の象徴ゾーンを編成。番組ホームページも統合してゾーンならではのオリジナルコンテンツの開発にも取り組んでいく。
また、日曜夜帯でも、秋元康、松任谷正隆、鹿野淳というトッププロデューサーが並ぶゾーンにスタジオジブリの鈴木プロデューサーを起用する 3 時間半の枠を編成。
3. 平日ワイド内にプロジェクトが目指す価値獲得（音楽インテリジェンスを高める、FM ならではのイメージーションを喚起する、東京のメディアならではのカルチャー、ショービズ主体の情報発信など）の象徴となるような企画性の高いベルト企画を複数開発し、セールスを推進する。そして、一流のライターやスタッフを投入し、他の制作スタッフへの良い刺激や影響を与えることも狙う。
4. 告知的要素の整理・統合・企画化のため、平日ワイドの間に新たなベルトコーナーを新設し、従来のワイド・パーソナリティが説明調で話すのではない、エンタテインメントとしての告知コーナーを目指す。

◎著作権研修会の実施について

先般の見えるラジオにおける情報の無断転用問題を受け、著作権侵害の再発防止を徹底すべく、放送、web、出版など TOKYO FM のコンテンツ制作に関わる全ての社員と、全社外制作スタッフを対象に、8 月 3 日（金）と 6 日（月）の 2 グループに分け、TOKYO FM ホールで著作権研修会を実施、著作権に対する意識・知識の向上を図りました。

講師には顧問弁護士の早稲田弁護士、上村弁護士を迎え、著作権侵害のリスクについて、具体的事例を挙げながら講義していただいたほか、参加スタッフたちと両弁護士との間で活発な質疑応答が行なわれました。

今後も、再発防止と放送倫理の徹底をより一層図るべく、定期的・継続的に研修の機会を設けてまいります。

◎第 3 回日本放送文化大賞ラジオ部門・中央審査提出番組について

(社)日本民間放送連盟の会員各社において、質の高い番組がより多く制作・放送されることを促す目的で、2005年度から実施されることになった顕彰制度「第3回日本放送文化大賞」東京地区の代表に、「SCHOOL OF LOCK!」が選出されました。これは、在京音声放送事業社であるTBSラジオ、文化放送、ニッポン放送、ラジオNIKKEI、J-WAVE、インターFM、ミュージックバード、そしてTOKYO FMの8社が、2006年6月から2007年5月の1年間に放送された番組の中から各1番組を候補番組としてノミネート、8月2日(木)に行われた東京地区審査会で、5名の審査員による審議により決定したものです。(5名のうち1名は内館先生にお願い致しました)

選出されたのは、「SCHOOL OF LOCK!」が2006年8月14日から16日までの3日間連続で実施した“親子問題特集”最終放送分で、番組審議会に於いても昨年9月5日にご試聴頂きました。審査員の方からは、「8番組の中で一番感情に訴えるものがあった。」「すべての教育現場に関わる人、30代40代の親世代の人たちにも聞いてもらいたい番組だと思った。」などの評価をいただきました。

この後は、9月に実施される全国7地区・7番組を対象とした中央審査会を経て、10月31日の第55回民間放送全国大会式典上で、グランプリ1作品、準グランプリ1作品が発表・表彰される予定です。

議題2：番組試聴

【番組名】「SAMURAI in The Ballpark」

【放送日時】

2007年6月6日(水)、22日(金)、7月27日(金)、8月2日(木)
10:55～11:00 放送分

【番組概要】

総勢13名の日本人選手が世界最高峰のメジャーリーグでプレーする2007年。松坂、岡島が旋風を巻き起こし、イチローはオールスターのMVPを獲得、松井は7月の月間MVPに輝くなど、その活躍は目覚ましいものがあります。本番組は、音声放送らしいスポーツ情報の手始めとして、日本人選手が所属チ

ームや地元ファン、地元メディアに及ぼしている影響や、彼らの活躍によって生まれつつある社会的なムーブメントなどを、現地の熱気と共に伝える目的で5月末にスタートしました。TOKYO FM AT NEWYORKの独自取材に基づき、東海岸の試合が終了し、西海岸の試合が始まろうとしている日本時間10時55分に月-金5分ベルとで放送中です。その中から4本を続けてご試聴頂きます。

- 7月27日(金)放送分：佐々木主浩とマリナーズファンとのエピソード
- 8月 2日(木)放送分：日本人選手、野球殿堂入りの可能性
- 6月 6日(水)放送分：松坂大輔に関するボストンファンの論争
- 6月22日(金)放送分：“Underdog”岡島秀樹が現地で評価される理由

<試聴時間：約20分>

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- 野球等スポーツに興味がなかった私でも、松井がメジャーリーグ行きを決めたときには、自分の地位を捨てて単身で本場へ乗り込む姿にとっても感動した。最近のスポーツ報道を見ていると、日本のメディアは勝ち負けや成績、メダルの数などに偏りすぎていると感じる。選手たちの人間的な部分などもっといろんな側面を見せてくれたら興味もてるのに、と思うことが多い。そういう意味では、このようにエピソードを多く教えてくれる番組は意義がある。スポーツに興味がなくとも聴いていてとても楽しめた。スポーツはファンあってこそなので、ファンとのエピソードが知れたのもよい。ゴルフ界でハニカミ王子がゴルフの良いイメージを作っているように、若い選手がスポーツ

の概念を変えてきているように思う。今後メディアも、人間的側面を伝えることでもっとファンを引き込んで行ける様な報道を行って欲しい。

- 7月27日放送分のアナウンサーが、はっきりしたしゃべりでチャーミングだったし、男性レポーターの喋りもテンポが良かった。これは楽しんで興味深く聴ける番組だ。5分間であっても、アメリカの現地での情報を伝えるということは意味がある。
- 試合の中継は誰もが興味をもって見ているだけに、この番組ならではのものを、どういう風に構成していくかが肝心。
野球にはもともと理屈ではない不思議なドラマがある。どういう切り口で伝えていくかがポイント。
- 大変面白く聴かせて頂いた。「SAMURAI in The Ballpark」というタイトルが言い表しているように、単なるメジャーリーグ情報ではなく、日本人が世界レベルでどうなのかという視点で、アメリカ社会において日本人が受け入れられていく様子など、文化論的なところまで伝えてくれる素晴らしい番組を企画したと思う。放送時間も長くやるより5分間だからこそ丁度いいのであろう。番組のタイトルが非常に素晴らしい。
- 一人の日本人が身一つでアメリカに出て行き、その力量と人格とで掛け値無い評価を与えられる世界は、ビジネスや科学や音楽など各界では昔から既にあったこと。この番組では、最も幅広い人々が見ることが出来る「野球」を題材にその意味を5分間でピリッと毎日伝えており、非常によいこと。
私もスポーツには疎いほうだが、内容がエピソード性が高く引き込まれていく。特に6月22日放送分の“Underdog”は自身に置き換えて考えられ、頷ける場所があった。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放 送：番組「Heart Sharing」
9月23日（日） 6：00～8：30放送
- ② 書 面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット：TOKYO FMホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会は10月2日（火）に開催することを決めた。

以 上